

# 北陸石仏の会々報

## 笠舞地藏尊

滝本やすし

第36号

平成22年7月15日発行

編集と発行

北陸石仏の会  
(日本石仏協会北陸支部)  
代表 北村市朗

〒939-1315  
富山県砺波市太田1770  
尾田武雄 方  
電話 0763 - 32 - 2772  
振替 00740 - 2 - 11974

(年会費 3,000円)

丁目金沢市の小立野台から犀川方面へと下りる坂の途中、笠舞二  
 紀によるこの場所の難民保護のため、地蔵尊が祀られている。寛文九年の豪雨  
 の供養のため、地蔵尊が置かれた。そして収容所で亡くなった人々  
 時期荒れ地となつていた。その後、天保年間の飢饉の時に、横死  
 者の供養や地蔵尊が建てられた。左から順に石堂地蔵(石室内  
 現在の笠舞地蔵尊は、正面には左から順に石堂地蔵(石室内  
 に、地蔵坐像が納められている)、地蔵立像、祐天書名号塔が建  
 てられ、その右には数体の地蔵と名号塔などが建てられてい  
 る。

石堂地蔵の左側面に銘文があり、天保八年に再彫され龍宝山  
 中如來寺のことで、撰取院は当時如來寺に二つあつたとされる

塔頭の一つである。撰取院は当時如來寺に二つあつたとされる

は、祐天書名号塔の左側面には「為横病横死靈魂菩提」、裏面に  
 飢饉の時の供養として犀川浄土門(現在の浄土宗犀川組)によ  
 り建てられたもので、犀川浄土門(現在の浄土宗犀川組)によ

り、この笠舞地蔵尊は町会と如來寺により管理されておられ、毎年  
 八月二十四、二十五日には如來寺住職の読経による地蔵講の祭  
 が、行なわれていて、犀川組の造立である。不思議に思はれる

寺の住職に尋ねたのだが、これには気づいておられずに驚いて

おられた。天書名号塔の間に建てられておられる地蔵立像は、

石堂地蔵と祐天書名号塔との間に建てられておられる地蔵立像は、

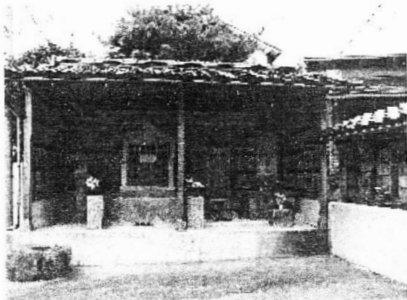
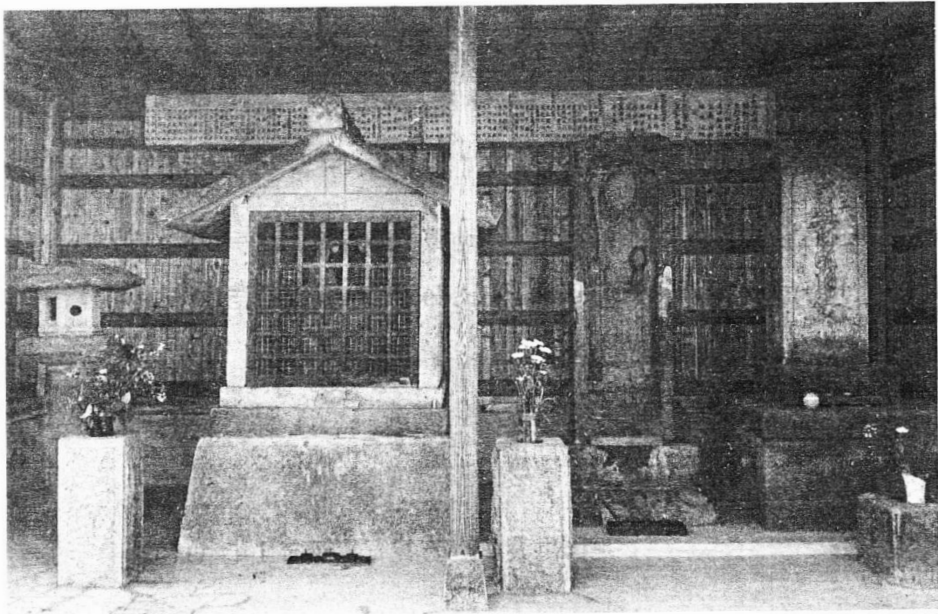
二つに割れて、その場所から埋めていたものである。この地蔵は、

赤戸室石製で、その様式から江戸時代中期の作とみられる。地蔵当

時、戸室石製の加賀藩主前田家と、江戸時代中期の作とみられる。地蔵当

を許されたのだろうか。この地蔵は再彫、再建前のもとの地蔵

だつたのだろうか。この地蔵は再彫、再建前のもとの地蔵





例会報告

第39回敦賀例会 永厳寺前にて

平成21年10月11日 (日)

北陸石仏の会第39回例会

福井県敦賀の石仏探訪

参加者 12名

平井一雄 宮本武征 西村多恵子 岩城義弘 尾田武雄 柳沢一夫 滝本やすし 池田紀子  
中川達 長侶達 北村市朗 山本昭治

出発 大沢野文化会館 6時30分

案内 福井県文化財保護指導委員 山本昭治 会長 北村市朗

●A南越前町八乙女 名号塔 徳本 天保3年(1832) 義賢

●B敦賀市

①井川 新善光寺 時宗 来迎弥陀三尊 花肖岩 鎌倉 六地藏 笏谷石 江戸

②曙町 氣比神宮

狛犬 笏谷石 大神下前神社 宝暦7年(1757) 角鹿神社 享保11年(1726)

古殿地 享和元年(1801) 庚申神社 寛保3年(1734)

③松島 来迎寺 時宗

六地藏立像 笏谷石 明応4年(1495)

④原 西福寺 浄土宗

多宝塔 笏谷石 正保4年(1647) 宝鏡印塔・五輪塔・板碑など

十三仏 花園岩 辻堂地藏 寛正5年(1464)

⑤関 村西端

弥陀三尊 花園岩 正和2年(1313) 廻国供養仏 笏谷石 元文4年(1739)

庚申供養塔 笏谷石 享保17年(1732)

⑥市橋 村の上下

ワレ地藏 花肖岩(金剛界大日如来坐像) パン 出村廿人見水口/暦応二年二月十八日

さかさ地藏 花肖岩(金剛界大日如来坐像)

⑦永厳寺

六地藏立像 多宝塔 宝篋印塔 終了 4時 北村市朗 報告要約 文責 平井

(3)



平成22年 5月30日 呉羽山釈迦三尊石像前にて  
北陸石仏の会第40回例会  
「神通川下流左岸（呉羽～四方）の石仏探訪」  
平成22年 5月30日

集合 10時 呉羽山 公園駐車場  
案内 滝本やすし 平井一雄

参加者  
平井一雄 宮本武征 岩城義弘 中川達 文山純子 酒井靖春 藤田正時 尾田武雄  
滝本やすし 池田紀子 長谷かおり 北村市朗 長侶達 山口五十一 竹内淑子 須山盛彰  
竹田稔

見学地

- 高見平和観音（高見之通家） 高王白衣観音 解説 平井
- 呉羽山 釈迦如来石像（台石に16弁菊花紋あり） 集合写真
- 長岡 五如来 地蔵
- 田刈屋 大信寺 百万遍利剣名号塔 如意輪観音墓標
- 富山市石坂 路傍  
胎蔵界大日／阿弥陀（台石：道標）／聖観音（台石：道標）
- 富山市八ヶ山 真国寺墓地 十三仏 高王白衣観音
- 富山市八ヶ山 共同墓地 五劫思惟阿弥陀（法蔵菩薩） 板碑
- 富山市北代 極楽寺跡「禁殺生」
- 富山市北代 路傍 阿弥陀（台石に16弁菊花紋あり）／地蔵
- 富山市四方町西岩瀬 医王寺  
阿弥陀／地蔵／観音（聖観音、如意輪観音、十一面観音、馬頭観音）  
不動／徳本書名号塔／義賢書名号塔

北陸3県の石仏研究者でつくる「北陸石仏の会」の例会は30日、富山市の神通川下流左岸地域で開かれ、会員ら約20人が地元研究者の案内で石仏を祭る路傍のお堂や墓所の民間信仰の一端に触れた。

お堂や墓所巡る

北陸石仏の会が例会



石仏を調べる参加者 一富山市の八ヶ山

地蔵を配置する例が多いが如きは珍しいと解説。  
八ヶ山の共同墓地にある五劫思惟阿弥陀像について尾田武雄事務局長は「砺波市は、元栗さんの往來の影響で鹿兒島でも同じ形の像が見られる」と紹介した。北村市朗会長は「越前市」があいさつし、役員改選を行った。新任役員は次の皆さん。  
▽副会長 平井一雄（富山市）  
▽理事兼例会事務局 滝本やすし（金沢市）



八ヶ山公園にて昼食



富山市八ヶ山 共同墓地  
五劫思惟阿弥陀（法蔵菩薩）を見る  
尾田さん解説

2010年(平成22年)6月12日(土曜日) 富山 発行

# 「利剣」名号塔を確認

富山の大本寺

北陸石仏の会 県内初

江戸後期の作 念仏講の信仰に活用か



利剣名号(りけんみょうごう) 開化時代の中国の僧・高僧の利剣(りけん)が、富山県富山市(旧富山町)の浄土宗大本寺である富山の大本寺(富山県富山市)に、江戸後期の作として建てられた石塔(名号塔)を確認した。この石塔は、利剣名号の念仏講の信仰に活用されているとされている。

富山の大本寺(富山県富山市)に、江戸後期の作として建てられた石塔(名号塔)を確認した。この石塔は、利剣名号の念仏講の信仰に活用されているとされている。

利剣名号(りけんみょうごう) 開化時代の中国の僧・高僧の利剣(りけん)が、富山県富山市(旧富山町)の浄土宗大本寺である富山の大本寺(富山県富山市)に、江戸後期の作として建てられた石塔(名号塔)を確認した。この石塔は、利剣名号の念仏講の信仰に活用されているとされている。



### 北陸石仏の会平成21年度決算

#### 収入の部

項目	予算	決算	備考
前期繰越金	81,757	81,757	前年度繰越金
会費	60,000	102,000	
雑収入	243	31	貯金利子
合計	142,000	183,788	

#### 支出の部

項目	予算	決算	備考
事務費	20,000	8,690	インキ代ほか
会報費	50,000	47,250	会報コピー代
郵送費	32,480	9,180	切手代
会誌費	50,000	0	
予備費	0	19,207	13,800例会補助
			5,407 弔電
合計	152,480	84,327	

183,788 - 84,327 = 99,461  
 次年度繰越金99,461円

### 平成22年度予算

#### 収入の部

項目	前年度決算	今年度予算	備考
前期繰越金	81,757	99,461	
会費	102,000	60,000	
雑収入	31	39	貯金利子
合計	183,788	159,500	

### 平成22年度事業計画

- 5月 済
- 10月 第41回例会 未定
- 会誌『北陸石仏の会研究紀要』第10号発刊
- 会報年1回以上発行
- 新潟石仏の会と連絡を密にする。

- 役員構成
- 会長 北村市朗 (福井県)
  - 副会長 平井一雄
  - 事務局 尾田武雄 (富山県)
  - 理事 滝本靖士 (石川県)
  - 理事 平井一雄 (富山県)
  - 監事 平井一雄 (富山県)

**お願い**

年会費 (3,000円)  
 未納の方は同封の振替  
 用紙で納入願います

**編集後記**  
 会報の発行が遅れ申し訳ありません。  
 今号から手作りで編集・印刷します。  
 発行回数を増やしますので原稿をお願いします。  
 A4に入る写真と原稿をお願いします。  
 メールで送ってもらえればありがたいです。  
 もちろん手書きでもOKです。  
 メールは下記まで  
 ・khja9jtr@gmail.com 平井一雄  
 ・手書きは尾田武雄宅へ

事務局 尾田武雄・平井一雄